

No. 3

【3】〔標準問題〕

(1) [be surprised to V] 《山梨大》

時に、親は10代の若者は一生懸命働くことと成功との間の結びつきを理解していないようだとことをわかって驚く。確かにメディアに示すような成功のイメージは、ミュージシャン、俳優、または選手が彼らが「あつという間」の成功の前に、従事してきた長年の苦闘や練習を表すことはめったにない。

(2) [be discouraged] 《小樽商科大》

米国は移民の国である。これらの移民は世界中から来ている。彼らは多くの異なる言語を話す。過去には、新しい移民がアメリカの学校で苦勞した。彼らは、英語での学校の勉強が理解できなかつたので、彼らはしばしば落胆し、学校を中退した。彼らは十分な教育がなかつたので、良い仕事を得ることができなかつた。

(3) [be given A] 《香川大》

2001年4月に、シムは学生のために選択したい教科書でいっぱい巨大なスーツケースを抱えて鳥取空港に到着した。彼女は高校の校長や教員による温かい歓迎を受けたが、その後、彼女はどのように韓国語のレッスンを組み立てるべきかについての具体的な支持を受け取らなかつた。

(4) [be laughed at] 《熊本県立大》

今日では、アメリカ人とイギリスは同様に、4月1日に友人や見知らぬ人にちょっとしたいたずらをする。一般的ないたずらは、友人の靴を指して「あなたの靴紐がほどけている」言うことである。彼らが足下を見ると、彼らは笑われる。小学生は、学校が中止になったと友人に伝えるかもしれない。小麦粉の袋が扉の上でバランスよく置かれて、「犠牲者」は扉を開いたときに、その小麦粉が彼の頭の上で空になるように。時には、メディアが関与する。かつて、スパゲッティ農家と彼らがどうやってスパゲッティの木から穀物を収穫するかについて英国の短編映画が4月1日に流された。ほとんどのエイプリルフールのジョークは楽しいものであり、誰かを傷つける意図はない。最高のいたずらは、誰もが、いたずらをされた人が特に、笑ういたずらである。

発展問題

(1) [be satisfied with A] 《滋賀医科大》

積極的な態度は幸運の主要な役割を果たす。その態度は幸運を生み出し、幸運を感じさせることに強く影響するからである。幸運で積極的な人は、あらゆる生活の分野で、不運で消極的な人よりもはるかに満足しているとワイズマンの研究は教える。積極的な人は雲がどれほど黒くてもその裏側が銀色なのを見つけて幸運だと感じる...しかし消極的な人は幸運に直面しても自分の運の悪さをのろう。なぜなら隣の庭の緑の芝生を見過ごせないからである。

(2) [受動態とイディオム] 《日本医科大》

多くの人が、次の文を論理に従って、判断し、非難するだろう「彼は何も言わなかつたのでは決してない」このような文章は「二重否定(ダブルネガティブ)」構造を持っていると言われている。批評家はそれらは非論理的であり、捨て去るべきだと主張している。なぜなら、二重否定は肯定になるからである。もし彼は何も言わなかつたのでは決してない場合には、これは彼が何かをまさに言ったことを必然的に意味するものである。

長文読解2

しばしば詩を読み、そこから多くの喜びを得ている人々はたくさんいる。しかし詩を読むことは難しく理解しにくいものだと思っている人々はさらに多い。事実、ある詩を何度も何度も読んでもおそれが何を意味しているかわからず困ることがある。このような問題を解決する1つの方法は、詩が全体として何についての詩であるのかを考えてみることである。①もし、私たちが、詩は通常どのように働き、そして普通どのような種類の題材を扱うのかについて、単純だがはっきりした考えをもっていれば、個々の詩をよりよく理解できるようになるはずである。

大まかにいって、詩について2つの大きな考え方がある。1つの見方は詩人自身に注目することである。②しばしばこの見方の基礎となっているものに、詩とは第一に詩人の感情の表現であるという考えがある。この見方を最も明快に述べているのは、有名なイギリスの詩人による、「詩とは力強い感情が自然にあふれ出たものである」という言葉である。この見方の中で、私たちの関心の中心にくるのは詩人の心の奥底にある本質について、詩がその作品の中で、何を私たちにはっきりと語りかけてくれるかである。つまり、私たちは詩をその背後にある詩人について知るために読むのである。これは、詩に対する一般的なとらえ方であるけれども、詩に全く当惑したり、詩人が表現している「感情」が何であるかわからず、したがって詩を鑑賞することができないでいたりする読者にとっては、あまり実際的なとらえ方ではない。③このような詩のとらえ方のもう1つの欠点は、詩そのものよりも、詩の背後にある詩人の心や個性をより問題にしている点である。したがって、このとらえ方は、とくに私たちすべてが経験する現実的問題つまり詩を読んで、それを理解しようとすることを回避しているがゆえに、不十分なとらえ方である。

第2の見方は、詩そのものを論じることに専心するものである。この場合、私たちの関心の中心は、詩集に書かれた言葉そのものである。このような見方は、詩について上に述べたのとは極めて異なった考え方を伴うことになる。先ほどの見方では、詩人は書かれた詩の背後にいるつかみどころのない、神秘的な人物とみなされたが、ここでは、重点は「作者」、つまり言葉で意味を作り出す人としての詩人におかれる。④私たちがこのような技能的要素を強調したとたんに、詩の内容と形式についてより明白な言葉で論じることが可能になるのだ。